

情報連絡員報告・1月分

好転が続いた製造業の売上高、収益状況、業界の景況のDIが悪化

～非製造業は売上高、業界の景況のDIが悪化～

<東京都中央会>

1月の情報連絡員報告によると、3ヵ月連続で好転していた製造業の売上高、収益状況、業界の景況のDI(前年同月比)が悪化した。また先月は好転した非製造業の売上高、業界の景況のDIは悪化、収益状況のDIは好転した。

特記事項からは先月に引き続き、寒波襲来の影響(「防寒帽は完売」、「暖房機器の売れ行きが好調」、「タイヤの売れ行きが良い」、「野菜類が高値で推移」)に関する報告がよせられた。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

特記事項欄より

「食料品」

- ・昨秋の韓国・中国産キムチの寄生虫卵騒動で消費が大きく減退したが、ここに来て国内産キムチは例年並みに回復基調を示している。

「繊維・同製品」

- ・1月も寒い日が続き、ニット商品、防寒帽は完売。春物の受注も活発になり、業界にとっては景気が右上りになってきた。
- ・1月は例年になく仕事量が多かった。原因としては厳寒のために冬物の追加発注があったこと。だが加工賃が低水準のままなので経営は厳しい。加えて

2月以降の受注量の不安もある。

「木材・木製品」

- ・年始の売上は悪かった。以前のような不安はないものの、今後の動向が気になるところ。年度末の仕事量がどの様に推移するか見守りたい。

「化学ゴム」

- ・寒波の影響でタイヤの売れ行きが良く、組合員は前年並みか前年比増の売上があった。

「その他製造」

- ・構造計算の偽装の影響から建築許可や認可に時間がかかり、着工に遅れがでている。その結果、仕事にバラツキがある。仕事量が減少する可能性があり、

仕事の見通しがたたない。

「卸売業」

- ・米国産牛肉の輸入の再禁止により、計画を狂わされた業界のダメージは多大である。

「小売業」

- ・プラズマ、液晶テレビ、DVDの数量はアップ、金額は横ばい。厳冬で暖房器具が好調。電子レンジ、洗濯・乾燥機、エアコン等は高付加価値商品の発売で平均単価がアップしている。
- ・寒波が続き、消費の低迷が続いた。大手や中堅の豆腐工場メーカー同士の価格競争がまだ続いている。
- ・昨年からの寒さの影響により野菜類が高値で推移したので、買い控えがあっ

たのと営業日数が少なかったので、厳しい1月となった。

「商店街」

- ・元旦からヨドバシカメラが開店し、既存の販売店もつられるように80%の店が元旦から営業していた。寒暖の差、降雪もあったが来客は多く、暖房機器の売れ行きは好調だった。

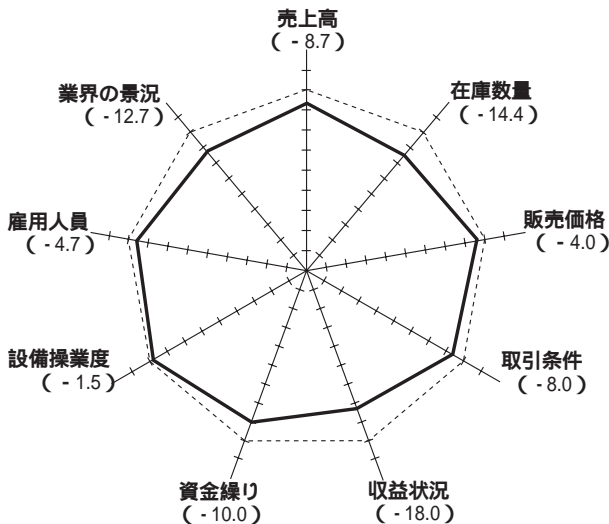
＜要望事項欄より＞

- *有害化学物質を使用している事業所が倒産・廃業し、放置されている。危険なので行政による取り組みが必要である。 [鉄鋼・金属]

- *行政は「食育」と「食の安全」を掲げているのだから地域の豆腐店を活用し、日本の食文化を守ってほしい。

[小売業]

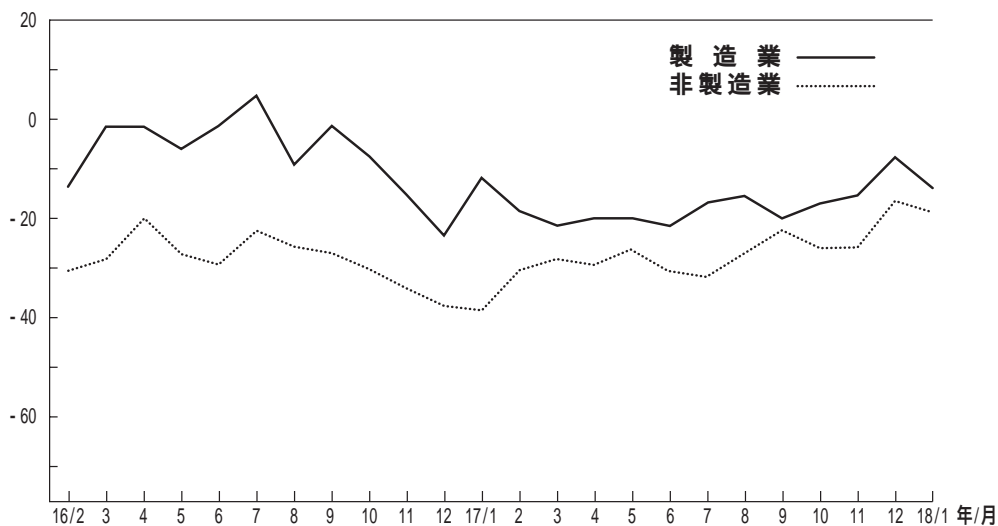
1月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)



(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

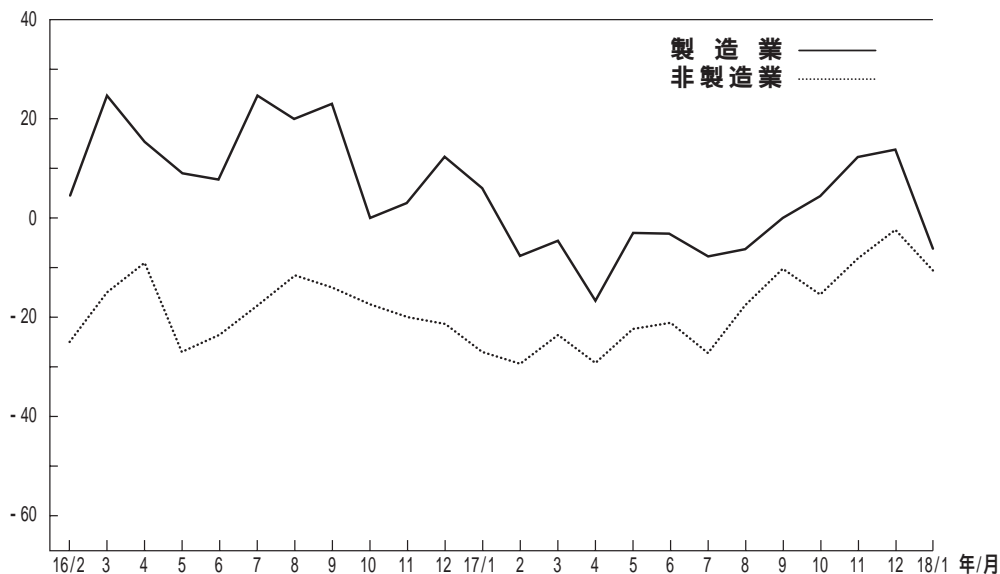
業界の景況DIの変化 (H16.2 ~ H18.1)

(前年同月比)



売上高DIの変化 (H16.2 ~ H18.1)

(前年同月比)



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。